

## 早稲田大学創造理工学部環境資源工学科所蔵鉱山調査報告書目録

池上, 重康  
北海道大学大学院工学研究院

<https://doi.org/10.15017/19693>

---

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 26, pp.115-124, 2011-03-23. 九州大学附属図書館  
付設記録資料館産業経済資料部門  
バージョン：  
権利関係：

## 【資料紹介】 早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 所蔵鉱山調査報告書目録

池 上 重 康

現在、早稲田大学創造理工学部環境資源工学科／理工学研究地球・環境資源理工学専攻が所蔵する、鉱山調査報告書の目録である。また、昨年度（二〇〇九年度）に日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）<sup>1</sup>の一環として資料調査を行った成果報告でもある。

早稲田大学は大隈重信が一八八二年に創立した東京専門学校を前身とする。一九〇二年には、翌年発令の専門学校令に先立ち「早稲田大学」と改称し、大学を自称した。一九〇八年には創立二五周年記念事業として理工科を創設した。

理工学部の創設にあたり、一九〇七年二月七日付維持会員記録によると「理工科ハ機械、電機、鉱業、建築ノ四学科」より構成することを予定していたが、翌一九〇八年一月二三日付維持員会の記録によれば「機械、鉱業ノ両科ヲ開キ、他ハ順次設立スルコト」と機械科と鉱業科を優先して設置しようとしていたことが読み取れる。その理由は「就中機械、鉱業ノ二科ノ如キハ時勢ノ必要上、経営ノ順序トシテ先ヅ手ヲ下スヘキ歟」であった<sup>2</sup>。しかしながら、実際の学科の設置は機械学科と電

気学科が先行し（一九〇八年九月）、翌一九〇九年九月に建築学科とともに採鉱学科は新設となった<sup>3</sup>。また、同年の学科目と修業年限を示した「理工科課程」には鉱山調査（実習）報告は記載されていない<sup>4</sup>。しかし、鉱山実習は一九一二（大正元）年度に、他の帝国大学等と同様、第三年を対象に行われており、一、二名からの「調査報告書」の提出があった。その後、一九一八年度まで一〇〜二〇名の学生が、内地・外地、あるいは炭鉱・金属鉱山を問わず万遍なく鉱山実習に赴き調査報告書を提出している。

一九二〇年四月の大学令にともない自称「大学」の理工科が、正式に早稲田大学となり理工学部に改称される。同時に採鉱学科も採鉱冶金学科と改称し、採鉱部と冶金部がその下部組織として設置された。この改組前後で、鉱山調査報告書の整理分類が混乱をきたしている。分類ラベルが「09」（卒業期を示し、大正の元号年と一致）であるにもかかわらず、実習年度は「大正拾年度」と表記される。該当報告書の中表紙に「大正九年度」と記されているので単純に製本時に間違ったのであろう。

同じく「大正拾年度」と表記される調査報告書の半数には「N10」の分類ラベルが貼られる。この分類ラベルの一部報告書には「採鉱別格二年」と記載しているものがあり、本来、三年次に行っていた鉱山実習をこの年度だけ二年次で行なった可能性が指摘できる。あるいは在籍年数は三年でありながら、留年などの理由で学年は二年次である可能性も否定できない。翌年度の調査報告書は「大正拾壹年度」あるいは「大正拾壹年」と表記され、分類ラベルには「O10」とある。報告書の中表紙には「採鉱学科三年」と表記されているものしか見当たらないので、従来通り三年次に鉱山実習を行っていたものと推察できる。一九二三年度に提出された調査報告書三四冊をピークに、一九二四（大正一三）年度以降、報告書の提出が極端に減少する。一九二八（昭和三）年度にいたっては、報告書の存在を確認できない。これは、単純に入学生数の減少に起因する。一九二三（大正一二）年から一九三四（昭和九）年に採鉱冶金学科を卒業した学生数をまとめたものが表1である。卒業年の前年に鉱山実習を行っているので、表1に記載の年と調査報告書目録（表2）に示す実習年の間には一年のズレがある。なお、一九二三年の卒業生は大学令以後、すなわち理工学部採鉱冶金学科の一期生にあたる。分類ラベル「N32」（一九四四（昭和一九）年度の提出）を最後に鉱山調査報告書は製本されなくなり、紐綴の簡易製本として保管される。報告内容も希

表1 採鉱冶金学科卒業生数

卒業年	(西暦)	卒業生数
大正12年	1923	38
大正13年	1924	34
大正14年	1925	13
大正15年	1926	6
昭和2年	1927	3
昭和3年	1928	3
昭和4年	1929	3
昭和5年	1930	7
昭和6年	1931	8
昭和7年	1932	5
昭和8年	1933	5
昭和9年	1934	8

薄になつている。終戦後、一九五一（昭和二六）年度卒業生まで「調査報告」を「鉱山見学」で代用していたことが影響しているのかもしれない。なお、一九六〇年（昭和三〇年代後半）以降、必修科目であった「鉱山見学」は選択科目となつた。

本稿では、戦前期の製本された鉱山調査報告書を対象に、その目録を整理・作成した。分類ラベルは、理工科から理工学部への改組前後で若干の混乱をきたすものの、おおそ卒業期に一致し、さらに各年度毎にナンバリングされた数字からは、該年度の提出報告書の冊数を推測できる。また、このナンバリングから紛失している報告書が少なくないことも読み取れる。戦中、勤労動員あるいは軍需省兵器総局の国内資源調査報告書は終戦と同時に破棄された<sup>7)</sup>というから、一九四五（昭和二〇）年度の鉱山調査報告書も同様の理由で破棄され現存していないのかもしれない。

報告書を通覧して興味深かつたのは、例えば東京帝国大学や京都帝国大学の鉱山実習報告書では、学生が後に鉱山の管理側に立つ視点で考察を行っているものが多く見られたのに対し、早稲田大学の調査報告書では、管理者というよりむしろ、労働者の側に立った視点での記述が目立つことであつた。終戦後、労働組合が認可されると同時に採鉱冶金学科の講義科目に「労働法」が即座に加えられたのも、ある意味、校風を反映しているといえるのかもしれない。

なお、早稲田大学所蔵の鉱山調査報告書の閲覧には、事前に所蔵元である理工学研究院地球・環境資源理工学専攻の教室会議での審議および認可が必要である。

## 注

- (1) 日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「日本近代鉱業系企業社宅街の形成過程と開発手法の特質に関する研究」(平成二〇～二二年度)、研究代表者、池上重康。
- (2) 『早稲田大学百年史第二巻』(一九八一年)、三〇三頁。
- (3) 一九〇八年一月の『理工科新設実行案』には、学科名称は「鉱業学科」ではなく「採鉱学科」と明記されている(『早稲田大学百年史第二巻』、三〇四頁)。
- (4) 『早稲田大学百年史第二巻』、三一三頁。
- (5) 『早稲田大学百年史第三巻』(一九八七年)、四四二頁。
- (6) 『早稲田大学百年史別巻Ⅱ』(一九八九年)、九一頁。
- (7) 『早稲田大学百年史別巻Ⅱ』、九六頁。

協力：角 哲(秋田工業高等専門学校 准教授)

砂本文彦(広島国際大学工学部 准教授)

谷村仰仕(広島国際大学工学部 講師)

中野茂夫(島根大学総合理工学部 准教授)

安野 彰(文化女子大学造形学部 准教授)

## 目録の凡例

〔調査報告書表題〕背表紙の表記に従った。背表紙が欠損しているものは中表紙の表記とした。旧字は常用漢字に改めたが、「礦」、「鐵」はそのまま表記した。

〔執筆者〕旧字はそのまま表記した。ラベルに隠れ判読不能な文字は□で表記した。

〔年度〕報告書の背表紙の表記に従った。

〔ラベル〕最初の二桁の数字はおおよそ卒業期を示す整理番号である。後ろの数字は年度毎の通し番号で、分冊がある場合はA・B・C、1・2、①・②またはⅠ・Ⅱが添えられる。

表2 早稲田大学鉱山調査報告書目録

調 査 報 告 書 表 題	執 筆 者	年 度	ラ ベ ル		
尾去沢鉱山調査報告	遠山四郎	大正元年	01	1	A
尾去沢鉱山調査報告附図	遠山四郎	大正元年	01	1	B
遊泉寺銅山調査報告	加藤榮太郎	大正元年	01	2	A
遊泉寺銅山調査報告附図	加藤榮太郎	大正元年	01	2	B
夕張炭礦調査報告	横山利三郎	大正元年	01	3	
小野田炭礦調査報告	高見澤一介	大正元年	01	4	
小坂銅山調査報告	中泉新	大正元年	01	5	
小坂銅山調査報告附図	中泉新	大正元年	01	5	
二瀬炭礦調査報告	黒瀬白	大正元年	01	7	
二瀬炭礦調査報告附図	黒瀬白	大正元年	01	7	
撫順炭礦調査報告	友井信義	大正元年	01	8	
撫順炭礦調査報告附図	友井信義	大正元年	01	8	
日立鉱山調査報告書	木下静馬	大正元年	01	9	
尾小屋鉱山調査報告	正野豊	大正元年	01	10	
尾小屋鉱山調査報告附図	正野豊	大正元年	01	10	
佐渡鉱山調査報告	井上哲男	大正元年	01	11	
茨城無煙炭礦調査報告	小野重三郎	大正元年	01	12	
別子鉱山調査報告書 第一編	小池正雄	大正二年度	02	1	A
別子鉱山調査報告書 第二編	小池正雄	大正二年度	02	1	B
阿仁鉱山調査報告書	宗方哲太郎	大正二年度	02	2	
三池炭礦萬田坑調査報告書	久保木信次	大正二年度	02	3	
幾春別鉱山調査報告書	山邊一郎	大正二年度	02	4	
不老倉鉱山調査報告書	東與三二	大正二年度	02	5	
荒川鉱山調査報告書 其一	佐々木芳之助	大正二年度	02	6	A
荒川鉱山調査報告書 其二	佐々木芳之助	大正二年度	02	6	B
椿鉱山調査報告書	重井平四郎	大正二年度	02	7	
撫順炭礦調査報告書	星野惺	大正二年度	02	8	A
撫順炭礦調査報告書 附図	星野惺	大正二年度	02	8	B
夕張炭礦調査報告書	湯浅義雄	大正二年度	02	9	A
夕張炭礦調査報告書 附図	湯浅義雄	大正二年度	02	9	B
青森県安部城鉱山調査報告書	花田英夫	大正三年度	03	1	
石川県尾小屋銅山撰鉱場調査報告書	山崎忠純	大正三年度	03	3	
内郷炭礦調査報告書	安井真十郎	大正三年度	03	4	
足尾銅山通道坑調査報告書	新井菊壽	大正三年度	03	5	
日本石油株式会社西山油田宮川出張所鎌田鉱場調査報告書	佐藤卓二	大正三年度	03	6	A
柏崎製油所調査報告書	佐藤卓二	大正三年度	03	6	B
久根銅山調査報告書	佐野菊次郎	大正三年度	03	7	
撫順炭礦調査報告書	角逸三	大正三年度	03	8	A
撫順炭礦調査報告書 附図	角逸三	大正三年度	03	8	B
大蔵鉱山調査報告書	朝日貫一	大正三年度	03	9	
台湾金瓜石鉱山報告書	細梅武雄	大正三年度	03	10	
日立鉱山調査報告書	五十嵐規矩也	大正三年度	03	11	
生野鉱山調査報告書	宋慶鼎	大正三年度	03	12	
帯江鉱山調査報告書	西村元三郎	大正四年度	04	2	
大之浦炭礦菅牟田第五坑調査報告書	富永貫一	大正四年度	04	3	
高田鉱山調査報告書	立花末次郎	大正四年度	04	4	

忠隈炭坑調査報告書	塚本武一	大正四年度	04	5	A
忠隈炭礦調査報告書附図	塚本武一	大正四年度	04	5	B
仙人鉦山調査報告書	中村節雄	大正四年度	04	6	
山野炭礦鴨生坑調査報告書	内海東男	大正四年度	04	7	
支那大冶鐵山調査報告書	三浦榮次郎	大正四年度	04	8	
八茎鉦山調査報告書	鹽澤正一	大正四年度	04	9	
山ヶ野金山調査報告書	森文彦	大正四年度	04	10	
大森鉦山調査報告書第壹卷	杉野信三	大正四年度	04	11	A
大森鉦山調査報告書第貳卷	杉野信三	大正四年度	04	11	B
大森鉦山調査報告書附図	杉野信三	大正四年度	04	11	C
吉岡鉦山調査報告書	片岡松三郎	大正四年度	04	12	
南満洲撫順炭礦楊柏堡坑充填採掘法報告	立川益蔵	大正四年度	04	13	
峰之澤鉦山調査報告書	中野争鹿	大正四年度	04	14	
花岡鉦山調査報告書	高山学	大正四年度	04	15	
神岡鉦山調査報告書	黒崎豊	大正四年度	04	16	
吉谷炭坑調査報告書	牛島隆	大正四年度	04	17	
面谷鉦山調査報告書	石井東作	大正五年度	05	1	
大荒澤鉦山調査報告書	石郷岡英之助	大正五年度	05	2	A
大荒澤鉦山調査報告書附図	石郷岡英之助	大正五年度	05	2	B
松岡鉦山調査報告書	蕪澤文雄	大正五年度	05	3	
串木野鉦山調査報告書	二宮郁之介	大正五年度	05	4	
安部城鉦山調査報告書	吉田孝信	大正五年度	05	5	
尾小屋鉦山調査報告書	鳴門孝夫	大正五年度	05	6	
遊泉寺銅山調査報告書	中島小四郎	大正五年度	05	7	
本溪湖煤鉄有限公司調査報告書	梅津七蔵	大正五年度	05	8	
杵島炭礦調査報告書	八頭司佐六	大正五年度	05	9	
釜石鉦山調査報告書	佐藤政右衛門	大正五年度	05	10	
尾去沢鉦山調査報告書	坂田禾麿	大正五年度	05	11	
足尾銅山調査報告書	木脇博	大正五年度	05	13	
三井田川炭礦伊田竪坑調査報告書	西岡哲夫	大正五年度	05	14	
永松鉦山調査報告書	小幡良	大正五年度	05	15	
新入炭礦調査報告書	畠訂	大正五年度	05	16	
方城炭礦調査報告書	平井文三	大正五年度	05	17	
日立鉦山調査報告書	猪又勉三	大正五年度	05	18	
串木野鉦山調査報告書	二宮郁之介	大正六年度	06	1	
高取鉦山附日三市鉦山選鉦場調査報告書	橋本奥雄	大正六年度	06	2	
高田鉦山調査報告書	梁上椿	大正六年度	06	3	
小坂銅山調査報告書	大川英三	大正六年度	06	4	
大瀬鉦山調査報告書	小田清	大正六年度	06	5	
水沢鉦山調査報告書	小谷重三	大正六年度	06	6	
加納鉦山調査報告書	高橋鐵造	大正六年度	06	7	
久根鉦山調査報告書	宗田惣一	大正六年度	06	8	
持倉鉦山調査報告書	祖父江周三	大正六年度	06	9	
鯉田炭礦調査報告書	筒井盤雄	大正六年度	06	10	A
鯉田炭礦調査報告書附図	筒井盤雄	大正六年度	06	10	B
撫順炭礦調査報告書	梅崎覚一	大正六年度	06	11	
木戸ヶ澤鉦山調査報告書	工藤啓策	大正六年度	06	12	
本溪湖炭礦調査報告書	候桂林	大正六年度	06	13	

雲山金坑調査報告書	小南不二男	大正六年度	06	14	
吉乃及八盛鉾山調査報告書	相坂一郎	大正六年度	06	15	
花岡鉾山調査報告書	佐原武雄	大正六年度	06	16	
綱取鉾山調査報告書	矢部直敬	大正六年度	06	17	
佐渡鉾山調査報告書	石井忠治	大正六年度	06	18	
別子鉾山調査報告書	早速勉	大正六年度	06	19	A
別子鉾山調査報告書附函	早速勉	大正六年度	06	19	B
生野鉾山調査報告書	石黒英一	大正七年度	07	1	A
生野鉾山調査報告書附函	石黒英一	大正七年度	07	1	B
三井田川大藪坑調査報告書	林宗徳	大正七年度	07	2	
崎戸炭礦調査報告書	林貢	大正七年度	07	4	
荒川鉾山調査報告書	丹生谷俊	大正七年度	07	5	
西沢金山調査報告書	土井彦太郎	大正七年度	07	6	
阿仁鉾山調査報告書	川島康一	大正七年度	07	7	
不老倉鉾山調査報告書	金井節二	大正七年度	07	8	
尾去沢鉾山調査報告書	春日井逸郎	大正七年度	07	9	
東山鉾山調査報告書	吉田二雄	大正七年度	07	10	
松嶋炭礦調査報告書	中島素	大正七年度	07	11	
珂玖鉾山喜和田鉾山調査報告書	小林鴻三	大正七年度	07	13	
大正鉾山調査報告書	河野俊雄	大正七年度	07	14	
尾去沢鉾山調査報告書	酒井清一郎	大正七年度	07	17	
相知炭礦調査報告書	宮崎安間	大正七年度	07	18	
峰地炭礦調査報告書	重藤武者勝	大正七年度	07	19	
釧路炭礦調査報告書	松永六治	大正七年度	07	22	
三井本洞炭坑調査報告書	星見操	大正八年度	08	3	
金瓜石鉾山調査報告書	原田光一	大正八年度	08	4	
足尾銅山通道選鉾場調査報告書	本田明道	大正八年度	08	6	
三池炭礦七浦坑調査報告書	折目薫	大正八年度	08	7	
勝立坑調査報告書	小野勝浄	大正八年度	08	9	
豊羽鉾山調査報告書	川原政一	大正八年度	08	10	
永松鉾山調査報告書	笠原修	大正八年度	08	11	
大嶋鉾山調査報告書	横暮直秀	大正八年度	08	12	
茨城無烟炭坑第二坑調査報告書	宇田川光七	大正八年度	08	14	
古河第二目尾炭礦調査報告書	安原成吾	大正八年度	08	15	
河津鉾山調査報告書	増尾精一	大正八年度	08	16	
三井萬田坑調査報告書	福永亀吉	大正八年度	08	18	
富來鉾山調査報告書	板津直毅	大正八年度	08	21	
三井山野炭礦鴨生坑調査報告書	吉瀬浩	大正八年度	08	23	
竹野鉾山調査報告書	小助川省三	大正八年度	08	24	
山ヶ野金山調査報告書	原秀一	大正八年度	08	26	
稷山金礦浚渫採金法調査報告書	神田喜代蔵	大正八年度	08	27	
明治第四坑調査報告書	川谷淳一郎	大正八年度	08	28	
三好高尾第一坑調査報告書	島田等	大正八年度	08	29	
神岡鉾山茂住坑調査報告書	島彌口	大正八年度	08	30	
磐城炭礦高坂坑調査報告書	磯貞夫	大正拾年度	09	1	
日立鉾山製鍊所調査報告書	長谷川朋蔵	大正拾年度	09	2	
三井田川鉾業所第一坑報告書	戸田知	大正拾年度	09	3	
入山探炭第五坑調査報告書	山内東陸	大正拾年度	09	5	

磐城炭礦町田炭坑調査報告書	高月環(翠葉)	大正拾年度	09	6	
(同 付図)					ラベルなし
撫順炭礦大山採炭所千金寨坑調査報告書	木村岩記	大正拾年度	09	8	
三井田川鉱業所第三坑報告書	平野三郎	大正拾年度	09	9	
茨城無煙炭礦第二礦調査報告書	大川正禮	大正拾年度	09	10	
撫順炭礦楊柏堡坑調査報告書 附図	三浦茂	大正拾年度	09	11	A
撫順炭礦楊柏堡坑調査報告書 附図	三浦茂	大正拾年度	09	11	B
花岡鉱山調査報告書	橘高黄一	大正拾年度	09	12	
足尾鉱山調査報告書	ウーカー	大正拾年度	09	13	
足尾鉱山調査報告書	サンニヨン	大正拾年度	09	14	
台湾金瓜石鉱山並瑞芳金山調査報告書	伊賀崎基助	大正拾年度	N10	1	A
台湾金瓜石鉱山並瑞芳金山調査報告書附図	伊賀崎基助	大正拾年度	N10	1	B
撫順炭礦老虎臺採炭所調査報告書	今井史郎	大正拾年度	N10	3	
撫順炭礦老虎臺採炭所調査報告書附図	今井史郎	大正拾年度	N10	3	
大日本炭礦湯本礦業所調査報告書	長谷川栄治郎	大正拾年度	N10	4	
串木野鉱山調査報告書	沼田辰治	大正拾年度	N10	5	
三池炭礦宮浦坑調査報告書	落合光三	大正拾年度	N10	6	
撫順炭礦大山坑調査報告書	加藤良治	大正拾年度	N10	8	A
撫順炭礦大山坑調査報告書附図	加藤良治	大正拾年度	N10	8	B
日立鉱山調査報告書	福島武雄	大正拾年度	N10	9	
大辻炭礦調査報告書	城戸日出夫	大正拾年度	N10	10	
磐城炭礦小野田炭坑調査報告書	喜多寛次	大正拾年度	N10	11	
佐渡鉱山調査報告	菊地藤造	大正拾年度	N10	12	
杵嶋炭坑調査報告書	毛利次□	大正拾年度	N10	13	
鯉田炭坑第五坑調査報告書	杉本哲五郎	大正拾年度	N10	14	A
鯉田炭坑第五坑調査報告書附図	杉本哲五郎	大正拾年度	N10	14	B
道川油田調査報告書	今井喜三郎	大正拾壹年	O10	2	
北海道夕張炭礦天龍坑調査報告書	仙谷千和喜	大正拾壹年度	O10	3	
撫順炭礦萬達屋坑調査報告書	任統彬	大正拾壹年	O10	4	
新夕張炭礦調査報告書	星山竹三	大正拾壹年	O10	5	
鯛生金山調査報告書	小原有海生	大正拾壹年	O10	6	
北海道万字炭礦調査報告書	小笠原千代治	大正拾壹年度	O10	7	
撫順炭礦新屯坑調査報告書	甘露寺順孝	大正拾壹年	O10	8	
幾春別炭礦調査報告書	田村栄一	大正拾壹年	O10	9	
三井串木野金山西山坑調査報告書	田代哲夫	大正拾壹年	O10	10	
北海道夕張炭坑調査報告書	立花多三郎	大正拾壹年度	O10	11	
大夕張炭礦調査報告書	中村範一	大正拾壹年	O10	14	B
亀山炭礦調査報告書	中島徳太郎	大正拾壹年	O10	15	
撫順炭礦龍鳳坑土砂充填作業調査報告書	小池幸作	大正拾壹年	O10	16	
弥生鉱業所調査報告書	前村正	大正拾壹年	O10	22	
豊川油田二於ケル油井掘鑿法調査報告書	渥美武六	大正拾壹年	O10	23	
赤池鉱業所第二坑調査報告書	相浦英六	大正拾壹年	O10	24	
柵原鉱山調査報告書	岸本勝利	大正拾壹年	O10	25	
幌内礦調査報告書	皆川治平	大正拾壹年	O10	26	
若菜辺礦南坑調査報告書	渋谷八造	大正拾壹年	O10	27	
高島鉱業所二子坑調査報告書	島房一	大正拾壹年	O10	28	A
高島鉱業所二子坑調査報告書附図	島房一	大正拾壹年	O10	28	B
相知炭礦調査報告書	辛島吉之助	大正拾壹年	O10	30	

三好炭坑調査報告書	一實虎彦	一九二三	N11	1
秋田県雄勝郡吉乃鉦山調査報告書	市島吉之助	一九二三	N11	2
相知炭坑調査報告書	馬場林	一九二三	N11	3
中島礦業株式会社第二坑調査報告書	西川武夫	一九二三	N11	4
古河好間鉦業所調査報告書	大川健次郎	一九二三	N11	5
磐城炭礦株式会社高坂坑調査報告書	大野恭次郎	一九二三	N11	6
高田炭坑調査報告書	渡辺四三	一九二三	N11	7
豊国炭坑第三坑調査報告書	金阪越二	一九二三	N11	8
生野鉦山調査報告書	笠井志郎	一九二三	N11	9
方城炭礦調査報告書	田崎儀四郎	一九二三	N11	10
撫順炭礦古城子露天堀調査報告書	堤秀雄	一九二三	N11	11
煙台炭坑調査報告書	永野義齊	一九二三	N11	12
本溪湖炭坑調査報告書	隈上三蔵	一九二三	N11	13
坂炭礦株式会社に歌志内炭礦調査報告書	松尾経雄	一九二三	N11	14
土畑鉦山調査報告書	小檜山元	一九二三	N11	15
崎戸鉦業所福浦坑調査報告書	栗野良平	一九二三	N11	16
製鉄所二瀬出張所中央坑本礦調査報告書	木村利夫	一九二三	N11	17
西沖之山炭礦調査報告書	岸上順一	一九二三	N11	18
三菱上山田炭坑調査報告書	弓削田徳次郎	一九二三	N11	19
鯉田炭坑調査報告書	宮田稔	一九二三	N11	20
撫順炭礦新屯坑調査報告書	清水年夫	一九二三	N11	21
尾去沢鉦山調査報告	仙石知止	一九二三	N11	22
磐城炭礦株式会社町田堅坑内二卸及広畑調査報告書	菅原清行	一九二三	N11	23
入山採炭株式会社第五坑調査報告書	一木昇吾	一九二三	N11	25
撫順炭礦龍鳳坑調査報告書	宮口剛	一九二三	N11	26
佐渡鉦山製鍊所調査報告	西田博	一九二三	N11	28
串木野鉦山製鍊所調査報告書	丸衛治	一九二三	N11	31
磐城炭礦株式会社綴坑調査報告書	成田與吉	一九二三	N11	34
砂川炭鉦調査報告書	伊藤弘	大正十三年度	N12	1
沖ノ山炭坑調査報告書	一柳眞雄	大正十三年度	N12	2
唐地炭田岩屋炭坑調査報告書	石原茂	大正十三年度	N12	3
三池鉦業所宮ノ浦坑調査報告書	林巖	大正十三年度	N12	4
日本石油豊川鉦業所調査報告書	洞水悟	大正十三年度	N12	5
北海道炭礦汽船株式会社登川炭礦調査報告書	河合穰	大正十三年度	N12	9
三菱新入炭坑第六坑調査報告書	中橋佐治	大正十三年度	N12	12
三井串木野金山西山坑調査報告書	坂田勇	大正十三年度	N12	13
正気嶺並咸鏡北道諸炭坑調査報告	磯行三	大正十四年度	N13	1
撫順炭礦東郷坑場調査報告	笠原謙一	大正十四年度	N13	2
足尾通洞選鉦場調査報告	山本鋭二	大正十四年度	N13	6
鯉田炭坑第一坑調査報告書	井上弘	大正十五年度	N14	1
久根鉦山調査報告書	大西万次郎	大正十五年度	N14	2
三井鉦山株式会社串木野鉦業所調査報告書	前田六郎	大正十五年度	N14	3
北海道炭礦汽船株式会社萬字礦相生坑調査報告書	大溝友吉	昭和二年度	N15	1
沖の山炭鉦新坑調査報告書	庄武彦	昭和二年度	N15	2
日立鉦山調査報告書	島宗悌作	昭和二年度	N15	
北海道炭礦汽船株式会社萬字礦美流渡坑調査報告書	池畑十太郎	昭和四年	N17	1
足尾銅山調査報告書	吉田國隆	昭和四年	N17	2
三井串木野鉦業所報告書	牛田包美	昭和四年	N17	3

三井鋁山株式会社申木野鋁業所調査報告	相羽忠雄	昭和四年	N17	6	
夕張炭礦最上坑調査報告書	佐瀬栄次	昭和四年	N17	7	
空知礦神威坑調査報告書	太田禮三郎	昭和五年度	N18	1	
三池鋁業所宮浦坑調査報告書	中川一郎	昭和五年度	N18	3	
太平洋炭礦株式会社釧路鋁業所春採坑調査報告書	山田徳司	昭和五年度	N18	4	
三井三池万田坑調査報告書	跡田泰輔	昭和五年度	N18	7	
鯛生金山鋁業株式会社調査報告書	安部高見	昭和五年度	N18	8	
沖ノ山炭礦新坑調査報告書	谷口栄	昭和六年度	N19	1	A
沖ノ山炭礦新坑調査報告書(附図)	谷口栄	昭和六年度	N19	1	B
台湾金瓜石鋁山調査報告書	新田旗一	昭和六年度	N19	2	A
台湾金瓜石鋁山調査報告書(附図)	新田旗一	昭和六年度	N19	2	B
幌内礦布引坑調査報告書	安藤忠男	昭和六年度	N19	5	
土肥金山調査報告書	横田貫	昭和七年度	N20		
長崎県西彼杵郡崎戸村九州炭礦汽船株式会社崎戸礦業所調査報告	川岸武	昭和七年度	N20	2	
日立鋁山採鋁調査報告書	西尾吉衛	昭和八年度	N21	3	
三井三池鋁業所宮ノ浦坑調査報告書	丁淑圻	昭和八年度	N21	8	
釜石鋁山調査報告書	長谷川萬年	昭和九年度	N22	4	
金瓜石鋁山調査報告書	楊金章	昭和九年度	N22	6	
満洲国本溪湖煤鐵公司廟兒溝鐵山調査報告書	小林重蔵	昭和九年度	N22	9	
三井三池鋁業所四ツ山坑調査報告書	木瀬信夫	昭和九年度	N22	10	
尾小屋鋁山調査報告書	本川忠壽	昭和十年度	N23	1	
三井神岡鋁山枋洞坑調査報告書	金子文郎	昭和十年度	N23	3	
高玉鋁山本山採鋁調査報告書	南日秀夫	昭和十年度	N23	7	
北海道炭礦汽船株式会社天龍坑調査報告書	坂寄親雄	昭和十年度	N23	8	
松尾鋁山調査報告書	樋口和美	昭和十年度	N23	9	
三菱鋁業株式会社生野鋁山調査報告書	板橋恒二	昭和十一年度	N24	1	
貝島炭鋁株式会社大辻炭鋁調査報告書	栗田直方	昭和十一年度	N24	8	
三菱鋁業株式会社大夕張鋁業所大夕張新坑調査報告書	河村永一	昭和十一年度	N24	14	
三菱鋁業株式会社佐渡鋁山調査報告書Ⅰ	龜山勝雄	昭和十一年度	N24	15	A
三菱鋁業株式会社佐渡鋁山調査報告書Ⅱ	龜山勝雄	昭和十一年度	N24	15	B
三井鋁山株式会社砂川鋁業所第一坑調査報告	水内三郎	昭和十一年度	N24	17	
三菱鋁業株式会社美唄炭坑第三坑調査報告書	清政武夫	昭和十一年度	N24	18	
古河鋁業合名会社足尾鋁業所採鋁調査報告書	服部義雄	昭和十二年度	N25	1	
住友大萱生金山調査報告書	奥村隆康	昭和十二年度	N25	2	
南満洲鉄道株式会社撫順炭鋁龍鳳採炭所調査報告書	吉澤正夫	昭和十二年度	N25	7	
住友上歌志内礦竪坑調査報告書	磯野三雄	昭和十三年度	26	1	
吉野鋁山採鋁調査報告書	大寶蕃彌	昭和十三年度	26	3	
本溪湖煤鐵公司調査報告書	本郷宏平	昭和十四年度	27	4	
基隆炭礦実習報告書	李世祿	昭和十四年度	27	7	
住友北日本鋁業所国富鋁山調査報告書	三浦三郎	昭和十三年度	26	10	
永松鋁山調査報告書	中井裕	昭和十四年度	27	12	
日本鋁業海底鋁山調査報告書	南部健三	昭和十四年度	27	14	
株式会社三井神岡鋁山実習報告書	梅澤元次	昭和十四年度	27	15	
尾平錫鋁床調査報告書	山縣倫彦	昭和十四年度	27	23	
国富浮遊選鋁所調査報告書	伊藤弘	昭和十五年度	28	1	
北票炭礦臺吉採炭所実習報告書	盧遵義	昭和十五年度	28	4	
満洲楊家杖子鋁山調査報告書	張曾鉞	昭和十五年度	28	6	
満洲鋁山青城子鋁業所実習報告書	荻野泉	昭和十五年度	28	7	

花岡鉾山実習報告書	大泉鶴義	昭和十五年度	28	9	
貝島炭鉾株式会社大之浦炭鉾第五礦実習報告書	木原光	昭和十五年度	28	17	
日本化学株式会社佐世保鉾業所実習報告書	帆足等	昭和十六年度	29	1	A
日本化学株式会社佐世保鉾業所実習報告書	帆足等	昭和十六年度	29	1	B
日本亜鉛鉾業株式会社中龍鉾業所調査報告書	藤堂良知	昭和十六年度	29	3	
別子鉾山採鉾実習報告書	三井精一	昭和十六年度	29	5	A
別子鉾山採鉾実習報告書	三井精一	昭和十六年度	29	5	B
三菱鉾業株式会社細倉鉾業所調査報告書	入澤三郎	昭和十六年度	29	6	
明延鉾山採鉾実習報告書	大瀧新	昭和十七年度	30	1	
樺太鉾業株式会社太平鉾業所実習報告書	田中光男	昭和十七年度	30	3	①
樺太鉾業株式会社太平鉾業所実習報告書	田中光男	昭和十七年度	30	3	②
東邦炭鉾株式会社鞍手鉾業所実習報告書	谷口次郎	昭和十七年度	30	4	①
東邦炭鉾株式会社鞍手鉾業所実習報告書	谷口次郎	昭和十七年度	30	4	②
入江炭礦調査報告書	田中正義	昭和十七年度	30	5	①
入江炭礦調査報告書	田中正義	昭和十七年度	30	5	②
日本精鉾株式会社中瀬鉾山実習報告書	土屋禎次	昭和十七年度	30	6	
住友鉾業歌志内鉾業所歌志内礦実習報告書其ノ一	吉田英幸	昭和十七年度	30	7	①
住友鉾業歌志内鉾業所歌志内礦実習報告書其ノ二	吉田英幸	昭和十七年度	30	7	②
鳥取県岩美鉾山調査報告書	富永裕	昭和十七年度	30	8	①
鳥取県岩美鉾山調査報告書	富永裕	昭和十七年度	30	8	②
三菱勝田鉾業所堅坑実習報告書	後藤秀夫	昭和十八年度	31	2	
日鐵鉾業株式会社釜石鉾業調査報告書	杉村暁秀	昭和十八年度	31	3	I
日鐵鉾業株式会社釜石鉾業調査報告書	杉村暁秀	昭和十八年度	31	3	II
三井山野鉾業所実習報告書其ノ一	中村楨良	昭和十八年度	31	4	I
三井山野鉾業所実習報告書其ノ二	中村楨良	昭和十八年度	31	4	II
帝國石油株式会社秋田鉾業所調査報告書	舟木襄	昭和十八年度	31	5	
三菱美唄鉾業所堅坑実習報告書	藤井久夫	昭和十八年度	31	6	
蔵王鉾業所実習報告書	益田潤一	昭和十八年度	31	7	
大土森鉾山実習報告書	早瀬喜太郎	昭和十八年度	31	8	
俱知安鉾山第三鉾床報告書	有岡宏	(昭和十九年度)	N32	1	
北海道三井芦別実習報告書	井上大巳	(昭和十九年度)	N32	2	
雄別鉾業所実習報告	笠井次郎	(昭和十九年度)	N32	3	
生野鉾山実習報告	杉村健三	(昭和十九年度)	N32	8	
宇部興産株式会社沖ノ山炭鉾実習報告	銅直雅郎	(昭和十九年度)	N32	10	
茂山鉾山調査報告書	中村一郎	(昭和十九年度)	N32	11	
住友鉾業株式会社北海道赤平鉾調査報告書	中津允武	(昭和十九年度)	N32	12	
三井鉾山株式会社田川鉾業所調査報告	古川正八	(昭和十九年度)	N32	A 14	
三井田川鉾業所実習報告書	古川正八	(昭和十九年度)	N32	B 14	
日本鉾業株式会社検徳鉾山実習報告書	牧野友茂	(昭和十九年度)	N32	18	